

## 乳房炎 その2

### 黄色ブドウ球菌による乳房炎について

黄色ブドウ球菌は、乳房炎の原因菌のうち、最も恐れられているものです。この菌は、伝染性乳房炎の原因菌といわれるように、搾乳器具や搾乳者を介して他の牛にまん延していきことがあります。また乳房の奥深くに入り込み、抗生物質が届かないことから、治りにくいのも特徴です。

生乳、搾乳器具、牛体、搾乳者および牛舎環境から採取された黄色ブドウ球菌が同じ由来の菌かどうか調査した結果、搾乳器具、搾乳者および牛体から採れた菌は生乳から採れた菌と同じ由来であることが確認でき、牛に接触する搾乳器具あるいは搾乳者が黄色ブドウ球菌をまん延させていることが確かめられました。牛舎環境から採れた菌については、別の由来であるという結果が出ました。

黄色ブドウ球菌の感染を予防するためには、乳頭清拭は1頭1枚、乳頭損傷となる過搾乳防止、搾乳後のディッピングを確実に行うことです。また、感染牛の早期発見、早期治療に努め、乳房炎感染牛の搾乳順序は最後とします。さらに難治性の乳房炎感染牛は淘汰することも伝染を防ぐうえで効果的な方法です。

(日本乳房炎研究会 第10回学術集会から)